

琵琶湖 新 発見

D I S C O V E R B I W A K O

暮らしの安心と地域の発展のために 大津放水路

大津市は琵琶湖観光の玄関口として、また豊かな水を利用した商工業の中心地として発展を続けています。大津放水路は市内を流れる三田川、盛越川（狐川を含む）、兵田川、篠津川、相模川、堂の川、諸子川の治水を行い、安心して暮らせる地域づくりのために計画されました。この事業の推進によって、流域の中央部で地下放水路トンネルを約4.7kmにわたって建設し、増水時の水を放水路トンネルにつなぎ、瀬田川に放流できます。計画地域は、県内の行政、経済の中心地で人口も密集し、また東西交通の要でもあることから、放水路も100年に1回の大きな洪水にも耐えられるように設計されました。

計画地のうち名神高速道路の山側はミヤコアオイ、ニホンリス、モリアオガエル、ゲンジボタル、カワセミなどの動植物が生息する豊かな自然に恵まれた地域でもあることから、大津放水路は生態系にできるだけ影響を与えない地下トンネルによる工法が採用されました。また、伽藍山風致地区に位置する瀬田川合流部では工事による掘削断面を極力抑える工法を用い、新設橋梁についても周辺の環境と調和したデザインになるよう配慮しています。自然環境を守りながら、わたしたちの暮らしの安全を高めていく大津放水路建設事業は、現在、第1区工事が進行中です。

